

令和 8 年度（令和 7 年度対象）

教育に関する事務の管理及び執行の 状況の点検及び評価報告書



令和 8 年 9 月

松野町教育に関する事務の点検・評価委員会

教育に関する事務の点検及び評価について

1 評価委員会の概要

地方教育行政の組織及び運営に関する法律第26条に基づき、松野町教育委員会が事務の管理及び執行の状況について自己点検及び評価を行い、そのことについて外部評価委員会が点検・評価を行って、報告書としてまとめる。

地方教育行政の組織及び運営に関する法律（抜粋）

（教育に関する事務の管理及び執行の状況の点検及び評価等）

第26条 教育委員会は、毎年、その権限に属する事務（前条第1項の規定により教育長に委任された事務その他教育長の権限に属する事務（同条第4項の規定により事務局職員等に委任された事務を含む。）を含む。）の管理及び執行の状況について点検及び評価を行い、その結果に関する報告書を作成し、これを議会に提出するとともに、公表しなければならない。

2 教育委員会は、前項の点検及び評価を行うに当たっては、教育に関し学識経験を有する者の知見の活用を図るものとする。

＜評価委員＞ 長谷 信昭
毛利 恭子
小野 榮子
藤簀 享史

＜委員会の開催状況＞

第1回 令和8年7月22日（水）「執行状況の点検・評価について協議」

第2回 令和8年8月7日（金）「執行状況の点検・評価について協議」

第3回 令和8年8月26日（水）「評価についてまとめ」

2 評価基準

施策が計画どおり <u>達成している</u>
施策が計画どおり <u>概ね達成している</u>
計画は未達成だが <u>達成に向かって進んでいる</u>
達成できず <u>課題がある</u>

3 評価

教育委員会実施の自己点検・評価については、概ね適正であると考えます。

自己点検評価について、報告書のとおり評価と意見を申し上げます。

「ふるさと松野を守り育てることのできる子どもを育む」という基本理念に基づき、ICT活用等の先進的な取組が進められています。一方で、デジタル化が進む中でのアナログ分野の再認識や、誰もが気軽に参加できる支援の仕組みづくりなど、多角的な視点からの持続可能な教育活動の展開を望みます。

令和8年度(令和7年度対象)教育に関する事務の管理と執行状況の点検・評価

業務名	事務の執行状況及び自己評価 考察（○成果 ●課題） ◆改善方策	評 価 ○評価委員の意見
1 教育総務	○教育委員会の事務局として、定例会や総合教育会議を通常どおり開催することができた。 ○子育て世帯の負担軽減支援策として、「中学校卒業新生活応援金」の給付、6月からは学校給食費の無償化を行った。 ○人材育成基金事業として、中学生3名に対し、オーストラリアへの語学研修事業に係る助成を行った。 ◆語学研修については、訪問先との調整が円滑に実施できるよう委託先と協議を行った。	評価：達成している ○給食費の補助は、本来は保護者負担が必要であろうが、物価の高騰もあり有効な支援策となっている。 ○語学研修事業の助成は、語学の習得と共に、様々な同世代間の交流の機会にもなっている。今後は、他の生徒への同様な機会の創出や、選考から漏れた生徒への配慮も必要ではないか。

業務名	事務の執行状況及び自己評価 考察（○成果 ●課題） ◆改善方策	評 価 ○評価委員の意見
2 学校教育の推進	○学校運営協議会を開催し、各学校の運営計画に対する委員の意見の集約や、学校運営状況等についての評価を受けた。 ○情報共有ツールであるオープンチャットを積極的に活用し、学校教育活動全般にわたり、学校支援ボランティアの支援を受けた。 ○外国語教育の充実を図るため、外国語指導助手（ALT）を2名配置し、保育園への派遣や低学年からの交流活動を実施した。 ○中学校に「World Class room」を導入し、AIを活用した英語力の向上とオンラインによる国際交流を実施した。 ○地域資源を活用した郷土学習として、東小学校では「おくうち棚田学」、西小学校では「森の国山城学」を実施した。 ○演劇教育を通じた人間力の育成を目指し、坊ちゃん劇場の出前講座を受講した。 ○子どもたちのチャレンジ精神の向上、基礎学力の向上に資するため、漢字検定、算数検定、英語検定の検定料の助成を行った。 ○学校歯科医師や地元企業からの教育費寄附金を活用し、施設備品やICT機器を整備し、授業等で効果的に活用した。 ○西小学校を拠点校とした通級指導教室を設置し、障がいや特性による学習や生活上の困難を改善・克服するための個別指導を行った。	評価：概ね達成している ○学校支援ボランティアは、参加者が固定されている。もっと気軽に参加できるような仕組みを考えてはどうか。 ○「World Class room」の導入は、通常の授業ではできない体験であり、ぜひ続けてほしい。 ○地域をフィールドとした教育の実践は、ふるさとを愛し守り育てていくという町の方針にも符合しており、評価できる。 ○通級指導教室の運営は、学校全体で連携して支える必要がある。

業務名	事務の執行状況及び自己評価 考察（○成果 ●課題） ◆改善方策	評 価 ○評価委員の意見
2 学校教育の推進（つづき）	○不登校又は不登校傾向の児童生徒の居場所として、中学校と西小学校にサポートルームを設置した。 ○G I G Aスクール構想による1人1台端末の更新を行い、授業や持ち帰り学習等で活用した。 ●1人1台端末の破損や不具合が頻繁に発生し、修理対応、予算確保に苦慮している。 ●登校や学習に不安を抱える児童生徒が増加傾向にあり、個々に応じた学習機会を提供するための人材不足、環境整備が課題となっている。	○デジタル機器の更新を行っているが、アナログ分野の見直しも必要である。災害時の意思疎通や道德面におけるアナログ分野の重要性を学校教育、家庭教育の中で再認識すべきである。
3 生涯学習の推進	○松野中学校の第53期卒業生を対象とした成人式を、1月3日に役場庁舎において開催した。 ○庁舎や地区公民館における図書コーナーの充実並びに読み聞かせなどの読書活動の推進に努めた。なお、図書コーナーについては、リクエストBOXを設置することにより、利用者のニーズに沿った図書の充実に努めた。また、引き続き県立図書館の協力図書に取り組み、利用者の便益を図った。 ◆公民館・分館事業については、参加者の減少が著しく、運営方法に課題があるため、簡素化や内容の充実など、既存事業の見直しをして一部事業は開催した。また今後、休止中の事業に関しても見直しを行い開催する。	<u>評価：概ね達成している</u> ○公民館事業の展開では、吉野分館が積極的に豊富な活動を行っており、よい手本となっている。 ○公民館行事では、参加者の負担軽減に努めるとともに、少しでも参加者が増えるよう、可能な形でこれまで同様に取り組んでほしい。 ○県立図書館の協力図書に引き続き取り組んでほしい。 ○図書コーナーにリクエストボックスが設けられており、図書の充実が実感できるようになってきた。

業務名	事務の執行状況及び自己評価 考察（○成果 ●課題） ◆改善方策	評 価 ○評価委員の意見
4 生涯スポーツの推進	○まつの桃源郷マラソン大会については、950名のエントリーがあった。今後も持続可能で効果的な大会運営を目指す。 ○町制70周年記念事業として森の国大運動会を開催した。町内10分館すべてが参加し盛大に実施できた。 ○松野中学校運動場の屋外照明設備について、水銀灯の製造中止に伴い、LED照明への更新を行った。 ◆駅伝大会は、中学校から1チームがオープン参加し、7チームで開催することができた。今後も選手構成や区間等を工夫し、継続できるように努める。	評価：概ね達成している ○桃源郷マラソン大会は現在の開催規模が適正であり、これからも続けてほしい。 ○LED照明の更新に伴う運動場の有効活用を図ってほしい。
5 人権・同和教育の推進	○あおぞら子ども会では、引き続き地域の素材を活かした学びを深め、四国地区人権教育研究協議会主催の「四国地区人権教育研究大会」及び全国人権教育研究協議会主催の「全国人権・同和教育研究大会」において実践報告を行った。 ○森の国人権の集いでは、あおぞら子ども会の活動報告のほか、「みんなで考える人権」をテーマとして、中学生と一般参加者が同じテーブルを囲む「多世代交流・ワークショップ形式」を行った。 ●あおぞら子ども会を核とした人権・同和教育の推進を図るため、引き続き住民への啓発活動及び行政職員の研修を拡充する必要がある。	評価：概ね達成している ○全国規模、四国規模の大会で町の取組を実践報告できた点は評価できる。 ○人権学習は構えてしまいう人も多く、気軽に話し合える機会の創出が必要である。あおぞら子ども会の活動を通して、また小集団学習会を行うことで、さらなる広がりを期待する。

業務名	事務の執行状況及び自己評価 考察（○成果 ●課題） ◆改善方策	評 価 ○評価委員の意見
6 文化財保存活用 の推進	○奥内の棚田及び農山村景観について、ガイダンス施設の整備に際し、管理道や駐車場、本体の整備工事に本格的に着手した。 ○町制70周年記念事業として松野西小学校6年生と松野東小学校5・6年生を対象に、木とのふれあいや水泳教室といった体験を通して森と水のつながりや大切さを学ぶ授業を実施した。 ○町制70周年記念事業として河後森城跡フォトコンテストを開催し、全国から作品の応募があった。 ○目黒の農山村景観の重要文化的景観選定に向け、地域住民の理解と意識向上に資することを目的に本景観の本質的価値を再発見する連続講座を合計4回開催し、延べ約100名の参加があった。 ○町内の小学生を対象に郷土学習「森の国山城学」と「おくうち棚田学」を実施し、体験学習を通して地域の歴史文化に触れる機会になるとともに、郷土愛の醸成につながった。 ○松野町指定無形文化財の伝承を図ることを目的に、松野町無形文化財伝承活動費補助金交付要綱を作成した。このうち、吉野五つ鹿踊りに対し補助金を交付した。 ●史跡の維持管理について、現在、業者委託を中心に、年2回の草刈りを実施しているが、十分とは言えず、経費についても、物価高騰等により増加傾向で推移している。今後は業者委託に加え、森の国山城の会や一般参加者を募集し、草刈り作業を実施したい。 ●専門職員の不足から史跡河後森城跡の発掘調査成果の整理・総括が遅延しており、今後の各種計画の作成に向け作業の円滑な推進が必要となっている。 ◆文化財の学術的な調査成果については、より分かりやすい形で価値を伝えていくための継続的な取組が必要である。	評価：概ね達成している ○奥内におけるガイダンス施設の整備については、開館後の管理・運営が適正に行っているよう配慮が必要である。 ○地域によっては祭りなど伝統行事の運営や存続が危ぶまれている状況であり、補助制度を設ける必要があるのではないか。 ○史跡の維持管理に係るボランティアの募集では、参加しやすい形での周知方法を検討すべきである。

業務名	事務の執行状況及び自己評価 考察（○成果 ●課題） ◆改善方策	評 価 ○評価委員の意見
7 文化行政の推進	○森の国文化祭の開催にあたり、展示部門では、作品展や教育文化展等を行った。また、芸能部門では、演劇等の特別出演もあり、文化活動に親しむ機会を提供することができた。 ●文化協会では、会員の減少が問題となっているため、会の活動や魅力を積極的に発信するなど、周知活動を強化することにより、団体の活性化に努めたい。 ○第72回不器男忌俳句大会を開催し、一般部門741句、高校生部門237句、中学生部門239句、小学生高学年部門293句、小学生低学年以下部門296句の投句を得た。当日は講演会のほか、各部門の句評、表彰等を実施した。 ○不器男記念館・目黒ふるさと館を中心に、町内外の観光施設と連携し、「四万十街道ひなまつり」を実施した。不器男記念館では、ガラス製雛人形、打掛、保育園児の手作り雛人形等の展示、目黒ふるさと館では、明治、大正、昭和、平成の雛人形の展示を行った。 ○不器男記念館では、専門家に活用企画業務を委託し、館内所蔵資料の調査・研究をはじめ、講座開催や来館者対応などの普及・啓発活動を行った。また、令和6年度に引き続き俳句の小径の句碑めぐりイベントも実施した。	評価：概ね達成している ○文化祭では、何らかの他の催しと共同開催を検討してはどうか。 ○不器男忌俳句大会では、専門家の関わりもあり、若者の参画が目立つようになっている。